



北浦和小学校だより

はと広場

平成29年10月3日発行 No. 6

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

本に恋する季節です！

*2017 読書週間の標語

校長 益子 聡

◆ 皇后 美智子さまを支えたのは 本でした

今振り返って、私にとり、子供時代の読書とは何だったのでしょうか。何よりも、それは私に楽しみを与えてくれました。そして、その後に来る、青年期の読書のための基礎を作ってくれました。

それはある時には私に根っこを与え、ある時には翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました。

読書は私に、悲しみや喜びにつき、思いを巡らす機会を与えてくれました。本の中には、さまざまな悲しみが描かれており、私が、自分以外の人がどれほどに深くものを感じ、どれだけ多く傷ついているかを気づかされたのは、本を読むことによってでした。 【美智子 / 橋をかける — 子供時代の読書の思い出 / 文春文庫より】

これは、1998年にインドで行われた国際児童図書評議会における、皇后美智子さまの基調講演の一部です。

◆ 子どもの頃の読書は 豊かな人生の扉を開きます

私と本との初めての出会いは、フレーベル館の月刊絵本『キンダーブック』。幼稚園の先生に読んでもらうことが大きな喜びでした。小学生時代は、旧浦和市出身の児童文学作家、石井桃子さん翻訳の『クマのプーさん』などを楽しみました。私が生きる上で土台となっている根本的な考え方の多くの部分は、子どもの頃の本との触れ合いからきているといってもよいです。

2017年7月、文部科学省は、平成28年度に行った「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」の調査結果を公開しました。その中で「子どもの読書活動と意識・行動等との関連性」についてわかってきたことの一例として次のことが挙げられています。

- 小学生の読書時間の長さは、学力や他者との関係性等に関わる意識や行動に、広く影響を及ぼしている。
- 小学生の段階で本をよく読んでいた中学生は、論理的思考や意欲・関心、人間関係等の面で、プラスの関連がある。
- 読書活動を進める取り組みが行われている学校に在籍しているかどうか、子どもの意識や行動等に大きな影響を与える。

◆ 北浦和小の 読書活動

今年4月、全国の6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の質問紙の結果として、〈読書は好き、どちらかといえば好き〉と回答した本校6年児童は82.5%。〈平日、1日当たり30分以上読書をする〉児童は47.3%と、全国平均よりそれぞれ8~10ポイント上回っています。私は、この良好な結果を生み出しているのは、家庭や学校で本に親しむ環境が整っているからだと思います。

学校では、各学級の図書の時間に、図書室で黒木恭子学校図書館司書による本の読み聞かせや新刊本の紹介を行っています。また、10月10日~31日を北浦和小の『読書週間』として、児童図書委員会による図書集会、〈音と絵本のお話会〉のボランティアさんたちによる図書朝会、親子で本を紹介し合う〈どんぐり親子郵便〉などの活動が予定されています。

読書の秋。暑すぎず寒すぎず、読書をするには最適な季節がやって来ます。今年の秋は、時間を作って親子で読書三昧に過ごし、価値ある時間を共有してみたいかがでしょうか。自分そして家族一人ひとりの人生が、もっと素晴らしくなる素敵な本との出会いを求めて……。



天候に恵まれた運動会。保護者、地域の皆様の声援に支えられ、子どもたちが全力を発揮する充実した一日となりました。ご参観くださったご来賓の皆様、地域の皆様。最後まで温かい応援をくださったご家族の皆様。準備から後片付けに至るまで、運営のお手伝いをいただいたPTA委員・係の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。